

九州教育学会 第74回大会（長崎）プログラム

1. 期 日 2022年12月3日（土）・4日（日）

2. 日 程

| 第1日 12月3日（土） | |
|------------------------------|---------------------|
| 13:00 ~ 13:50 | 総会 |
| 14:00 ~ 17:30 | 総合部会 |
| ※例年と大会スケジュールが異なりますのでご注意ください。 | |
| 第2日 12月4日（日） | |
| 9:30 ~ 12:30 | 自由研究発表 |
| | 第1分科会：教育哲学、教育史 |
| | 第2分科会：教育哲学、比較教育 |
| | 第3分科会：教育経営・行政、教育社会学 |
| | 第4分科会：教育方法（教育課程） |
| | 第5分科会：社会教育、教育社会学 |
| ※部会によって終了時間が異なりますのでご注意ください。 | |
| 12:00 ~ 13:00 | 休憩 |
| 13:00 ~ 15:00 | ラウンドテーブル |

3. 開催方法 Web 会議システム zoom を利用してのオンライン開催

4. 参加費 無料

5. 参加申し込み

大会運営上の事前の人数把握のため、参加を予定されている方は事前に参加申し込みをお願いします。下記申し込みフォーム、または QR コードから 2022 年 11 月 25 日（金）までにお申し込みください。



申し込みフォーム URL : <https://forms.gle/L1ubYEJqZ6xSwiuG6>

※大会参加に必要な zoom の URL 等は、お申し込みの有無にかかわらず、大会 3 日前までには全会員に学会事務局 <kyukyuu@gmail.com>よりメールにてお送りします。学会名簿に登録されているメールアドレスにお送りしますので、学会事務局からのメールが最近届いていないという方は、事前に学会事務局宛てに会員情報更新のご連絡をお願いします。

オンライン開催に関する諸連絡

- Web 会議システム zoom を利用してのオンライン開催に伴い、参加を希望される際は、事前にパソコンやタブレット、スマートフォン等に zoom アプリ（無料）をダウンロードしていただく必要があります。予め zoom アプリをホームページ (<https://zoom.us/>) よりダウンロードしてください。なお、zoom アプリは、無料のもので問題なく大会に参加できます。
- 参加を希望される方は、事前の参加申し込みのご協力をお願いします。詳しくは本大会プログラムの1ページ「5. 参加申し込み」をご確認ください。
- 会員の皆様には大会3日前を目途に、学会名簿に登録されているメールアドレスに zoom の参加用 URL、zoom ミーティング ID とパスコードをお送りします。必ず学会事務局 <kyukyou@gmail.com>からのメールを受信できるよう設定をお願いします。
- 発表要旨集録の冊子印刷は行いません。11月中旬を目途に学会ホームページに PDF にて公表しますので、そちらをダウンロードしてご確認ください。
- 大会参加に伴う zoom ミーティング ID 等を第三者に提供することはご遠慮ください。
- 大会当日は、各プログラム開始時刻の20分前から受付を始めますので、順次 zoom へ入室してください。なお、入室までに時間がかかる場合がありますので、余裕をもってご入室ください。
- 大会当日は、参加時のカメラおよびマイクはオフにしてください。ご発言の際にはご自身でカメラおよびマイクをオンにいただき、発言終了後は再度カメラ、マイクをオフに戻してください。なお、音声の流入や全体運営に支障がある場合は、事前の通知なく接続を切断させていただく場合がありますのでご了承ください。
- 参加時には事前にご自身の zoom 画面上での表示名を「氏名（所属機関等）」に設定するようにしてください。
- 記録のため、大会準備委員会ならびに学会事務局による録画を行う場合がありますのでご了承ください。なお、参加者の総会ならびに総合部会、自由研究発表の内容の写真撮影、動画撮影、音声録音、スクリーンショットは、原則禁止いたします。
- 参加者の機器やインターネット接続の不具合に関する問い合わせには、大会準備委員会ならびに学会事務局では対応できませんのでご了承ください。

自由研究発表の発表者の皆さまへ

zoom テストについて

大会 1 日目の午前中に zoom テストを行います。資料の画面共有などに不安のある方はご参加ください。詳細については、大会準備委員会より発表申し込み者宛てにメールでご連絡します。

受付について

大会当日は、部会開始時刻の 30 分前から入室可能です。発表に際する確認事項等ございますので、早めの入室にご協力ください。

発表要領について

(1) 発表時間

- ①個人研究発表 30 分（発表 20 分 質疑 10 分）
- ②共同研究発表 60 分（発表 40 分 質疑 20 分）

※発表時間の厳守にご協力下さい。当日は大会準備委員会より、残り時間をアナウンスさせて頂く場合があります。

(2) 発表資料

発表に際して、スライドや資料を zoom で画面共有する際には、発表者ご自身で操作ください。なお、当日配布を希望する資料がある場合は、前日までに、大会準備委員会が準備した Google ドライブに提出ください（希望者のみ）。詳細については、大会準備委員会より発表申し込み者宛てにメールでご連絡します。

(3) その他

各部会の最後には総括討論の時間が設けられております。発表者は必ず総括討論の時間には、発表された部会にお戻りください。

ラウンドテーブルの企画者の皆さまへ

ラウンドテーブルにつきましては、企画者の方を zoom の共同ホストに設定いたします。終了時間は 15 時となっておりますので、時間厳守にご協力ください。

教育を受ける権利の実質化をめぐる（その2）
—教育機会確保法やコロナ禍対応を不登校の視点から考える—

日 時：(大会第1日目) 12月3日(土) 14:00～17:30

提案理由

総合部会では、昨年度の大会で、「教育機会確保法（「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」）の成立5周年を機に、まずは夜間中学から考える」というタイトルで教育を受ける権利の実質化をめぐる議論に着手した。

今後は、教育機会確保法のもう一方の関係者、当事者となる不登校児童・生徒の視点から再検討を行うこととしたい。同法は当初、学校外の多様な教育機関での学びを制度として認める「オルタナティブ教育法案」等とよばれた。だが、その後、夜間中学との2本立てとなり、不登校支援については「個別学習計画」による「多様な教育機会確保法案」とされた。最終的には「多様な」という言葉とともに「個別学習計画」条項が削除された「教育機会確保法」が成立した。このような経緯で成立した同法に対し、当初の理念が失われた「不登校対策法」と指摘する向きもある。

すなわち、夜間中学の関係者などから「これまで学校教育制度の周縁領域とされてきた公立夜間中学を設置促進し、公教育の枠組み外とされていた自主夜間中学やフリースクールなどに公的な性格を与え、予算などの公的支援や、上級学校への入学資格などの付与に道を拓いた」（昨年度大会）と評価されるが、不登校関係の先行研究では別の評価がなされている。たとえば、「個別学習計画」が制定の争点になり、学校外での学びが就学義務の履行になりうるという見方がある一方で、個別の学習計画の認定を教育行政が担うことが家庭への公権力の介入にあたるとして反対する意見もみられた。ただ、いずれにせよ同法は「登校復帰目標への収斂という形式主義的回帰」（倉石 2018）にもなりかねず、このことはコロナ禍で登校／不登校の関係が反転し、在宅オンライン学習が一時的に奨励されながらも不登校児が排除／一時包摂されたり、「学びをとめない」というスローガン／言説が学校再開後は「遅れを取り戻す」として結局以前のビフォーコロナに揺れ戻ったりしている状況からもうかがえよう。

本年度はこうした視点から「教育を受ける権利」とその実質化にこだわり検討を行ってみたい。

司会者

元兼 正浩（九州大学）

針塚 瑞樹（別府大学）

報告者

喜多 明人（早稲田大学名誉教授）

「こども基本法制の形成と子どもの意見表明権の展開
一憲法 26 条・教育を受ける権利の実質を問うー」

上村 一隆（特定非営利活動法人 箱崎自由学舎 ESPERANZA(えすぺらんさ)副代表
ふくおかフリースクールフレンドシップ協議会 事務局長）

『『多様な学び』の確保に向けて～その現状と課題～』

藤根 雅之（関東学院大学）

「法制度化による権利保障の陥穽」

＜第1分科会＞

教育哲学、教育史

司会：江頭 智宏（名古屋大学）

【1】9：30～10：00

シムポジウム篇におけるエロースとプラトンの教育

東 敏徳（無所属）

【2】10：00～10：30

ルソー『エミール』における宗教教育

福永 暁斗（九州大学大学院人文科学府）

【3】10：30～11：00

ナチズムと幼稚園

勝山 吉章（福岡大学）

11：00～11：30 総括討論

＜第2分科会＞ 教育哲学、比較教育

司会：花井 渉（九州大学）

【1】9：30～10：00

「ブリコラージュ」による教師実践の記述について

齋藤 圭祐（九州大学人間環境学府）

【2】10：00～10：30

「考え、議論する道徳」という困難をめぐる一考察

—小学校教師の語りから示唆を得て—

山岸 賢一郎（福岡大学）

【3】10：30～11：00

韓国の多文化教育に見られる質的变化について

～ソウル市と仁川市の事例を中心に～

金 美連（熊本学園大学）

【4】11：00～11：30

日本国内における教育学的境界研究の序論的考察

—国境の島・対馬を対象として—

○楠山 研（武庫川女子大学）

○森下 稔（東京海洋大学）

11：30～12：00 総括討論

<第3分科会>

教育経営・行政、教育社会学

司会：金子 研太（九州工業大学）

【1】9：30～10：00

高等学校内における居場所づくりに関する一考察：社会正義の視点から

大城 穂乃香（名桜大学大学院国際文化研究科）

【2】10：00～10：30

総合学科の学校活性化に向けた学校経営および学校と教育行政との協働

福岡 哲朗（福岡市立福翔高等学校）

【3】10：30～11：00

スクール・レピュテーションを用いた公立高校の学校経営に関する一考察

佐藤 辰生（長崎県立佐世保工業高校定時制）

【4】11：00～11：30

基礎自治体の教育政策が地域と学校の関係性に与える影響

—宮崎県五ヶ瀬町の教育ビジョンを事例として—

有元 みゆき（宮崎大学大学院地域資源創成学研究科）

11：30～12：00 総括討論

<第4分科会>

教育方法（教育課程）

司会：園田 貴章（久留米大学（非））

【1】9：30～10：00

学習方略の獲得と変容に関する一考察—高校公民科の学習場面から—

下地 貴樹（九州大学学術協力研究員）

【2】10：00～10：30

知的障害特別支援学校における「教育」と「介助」に関する研究

—学習指導要領の歴史的変遷に着目して—

立石 カ斗（九州大学大学院／福岡市立生の松原特別支援学校）

【3】10：30～11：00

知的障害特別支援学校におけるデジタルツイン活用について

○宮本 聡（九州大学人間環境学研究院）

立石 カ斗（九州大学大学院／福岡市立生の松原特別支援学校）

○小川 拓郎（九州大学人間環境学研究院）

11：00～11：30 総括討論

＜第5分科会＞ 社会教育、教育社会学

司会：添田 祥史（福岡大学）

【1】9：30～10：00

多文化共生社会における外国人技能実習生に関する研究

—鹿児島県の事例を中心に—

王 雨晴（鹿児島大学大学院）

【2】10：00～11：00

多文化化の沖縄社会における学校と地域の協働的实践に関する研究（その1）

○嘉納 英明（名桜大学）

○山城 千秋（熊本大学）

○入江 優子（東京学芸大学）

【3】11：00～12：00

「子ども食堂」の意義と可能性に関する研究—「縁食」の視点から—

○金子 満（鹿児島大学）

○園田 愛美（特定非営利活動法人かごしま子ども食堂支援センターたくして）

○金子 陽飛（フルハークウィル株式会社）

12：00～12：30 総括討論

ーラウンドテーブルー

13:00~15:00

「答えが一つではない道徳的な課題」に向き合う道徳教育とは何でありうるか

企画者：山岸 賢一郎（福岡大学）

話題提供者：山岸 賢一郎（福岡大学）

塚野 慧星（九州大学人間環境学研究院）

齋藤 圭祐（九州大学大学院（人間環境学府 教育システム専攻））

◆◇◆九州教育学会第74回大会準備委員会◆◇◆

| | | |
|-------|-------|--------|
| 委員長： | 乙須 翼 | 長崎国際大学 |
| 事務局長： | 浦郷 淳 | 長崎国際大学 |
| 事務局員： | 畑中 大路 | 長崎大学 |
| 事務局員： | 藤井 佑介 | 長崎大学 |
| 事務局員： | 山岸 利次 | 長崎大学 |

| | | |
|-----------|-------|------------|
| 大会支援担当理事： | 大村 綾 | 西九州大学短期大学部 |
| | 嘉納 英明 | 名桜大学 |

◆◇◆お問い合わせ先◆◇◆

〒859-3298長崎県佐世保市ハウステンボス町2825番7
長崎国際大学人間社会学部内
九州教育学会第74回大会準備委員会事務局（乙須研究室）
TEL：0956-39-2020（大学代表）
E-mail：kyukyou74@gmail.com